

ひまわり



令和3年4月9日(金)

「聞く」と「聴く」



昨日の始業式では、皆さんに取り組んでほしい3つの話をしました。一つ目は、「感謝の心を持つ」ということでした。二つ目は、「春風を以^もって人に接し、秋霜を以^もって自らを慎む」という言葉から、人に優しく、自分に厳しくということでした。三つめは、「凡事徹底」という言葉から、当たり前のことを当たり前にしようというものでした。

本日は、「話のきき方」について伝えます。(話を)「きく」を漢字で書くと、「聞く」と「聴く」があります。「聞く」は「声や音が耳に入ってくること」です。「聴く」は「注意して耳にとめる」という意味で、傾聴という言葉があるように、聞こえるものの内容に耳を傾けることです。人の話をきく時には、「聴く」という姿勢が大切です。

以前、「聴」という字について、次の話を聞いたことがあります。「聴」を分解すると、次のようになります。【「耳」・「十」・「四」・「心」】つまり、「聴く」とは十四の心をもって聴くことだということです。そして、十四の心とは、次のことだそうです。

- 1 美しい心 2 新鮮な心 3 広い心 4 楽しい心 5 嬉しい心
- 6 面白く感じる心 7 微笑みを共有できる心 8 素晴らしいと思える心
- 9 悲しみを共感できる心 10 苦しみを共感できる心 11 いとおしい心
- 12 いたわる心 13 憂いを共有する心 14 感謝する心

「聴」という漢字の成り立ちを表したものではありませんが、その時々の場合に応じて、このような心構えで人の話を聴くことはとても大切なことです。

先日、桑津一丁目にあるお寺の掲示板に、「聴こうという心がなかったら、聞いていても聞けない」と書かれていました。なるほど、と思うばかりです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

